

令和5年度 小樽市立長橋中学校 学力向上改善プラン

1 生徒の実態

- ◆ 生徒の実態を下記の観点から数値をもとに文章で記載。
 - ① 令和4年度の全国学力・学習状況調査では、全教科で全国平均を大きく下回っている。国語、理科では、-7P、数学においては、-13Pという結果であった。
 - ② 標準学力検査においては、正答率における全国比で国語は、-2.2P、数学-7P、英語では、-2.3P
 - ③ チャレンジテストでは、国語、数学においてどの回も全学年、全道平均に近いが、数学においては、どの学年も全道平均に若干届いていない。
 - ④ 1日あたり1時間以上勉強する割合61%テスト前85.3%（前年度58.4%）携帯電話等の3時間と利用時間が高い傾向である。

2 学年ごとの定着目標（数値目標）

<国語科>

学年	定着目標
1年	・チャレンジテスト学期末問題全道平均以上を目指す。 ・音読カード活用する。
2年	・チャレンジテスト学期末問題全道平均以上を目指す。 ・標準学力調査全国平均以上を目標とする。 ・音読カード活用する。
3年	・チャレンジテスト学期末問題全道平均以上を目指す。 ・全国学力・学習状況調査、全国平均以上を目指す。 ・音読カード活用する。

<数学科>

学年	定着目標
1年	・チャレンジテスト学期末問題全道平均以上を目指す。 ・家庭学習習慣定着に向けた組織的な取組を実施する。
2年	・チャレンジテスト学期末問題全道平均以上を目指す。 ・標準学力調査全国平均以上を目標とする。
3年	・チャレンジテスト学期末問題全道平均以上を目指す。 ・全国学力・学習状況調査、全国平均以上を目指す

<学習・生活習慣（家庭学習等）>

学年	定着目標
1年	・全ての生徒が朝の読書の時間に自発的に本を読む。
2年	・「授業のルール」の生徒評価で「守っている」を9割以上にする。
3年	・「早寝、早起き、朝ご飯」の生徒自己評価結果を7割以上にする。 ・全国学力学習状況調査で「平日の家庭学習2時間以上」の生徒が全国平均以上を目指す。

3 目標を達成するための具体的な方策

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①朝読書の定着により、読書習慣の形成と学習規律の徹底を図る。
- ②「音読カード」の全校的な活用により基礎学力の定着を図る。
- ③下位層生徒への個別の取組実践を行う。放課後学習等活用

(2) 授業改善を図る校内研修の取組

- ①学習部中心に授業力の向上と学力形成を図る。
- ②授業のルール定着に全職員で取組み、学習規律を徹底する。
- ③数学科の習熟度別少人数指導の充実による授業改善を図る。

(3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①授業と家庭学習の連携実施と指導の充実（各学級・各教科）。
- ②放課後補習及び長期休業中補習の実施。

③小中連携の視点から習慣形成に向けて家庭との連携を進める。

(4) その他

- ①コミュニティスクールを利用した、地域人材の活用も検討。

4 実施計画

年月日	計画内容
R5年	・「Myゴール手帳」配布、学習の仕方・記録等確認 ・全国学力・学習状況調査過去問題の実施 ○R5全国学力・学習状況調査の実施 ○全国学力・学習状況調査 自己採点 ・・チャレンジテスト（前年度サポート問題）の実施 ○標準学力調査実施（第2学年）
4月	
5月	
6月	
7月	
8月	
9月	
R6年	・冬季休業中の学習会の開催 ・2学期評価を踏まえた3学期の改善方策実施 ・学習計画強化週間（定期テスト） ・学校評価③の実施（職員・学校関係者評価） ○新学力向上改善プランの作成 ・確認テストの実施
10月	
11月	
12月	
1月	

6 評価方法

(1)

- ①定期テスト、小テスト、チャレンジテスト分析等の実施
- ②全国学力・学習状況調査の実施と結果の分析
- ③年2回の学校評価の実施

(2)

- ①日常の授業における活動状況の観察による評価
- ②生徒アンケート「授業のルール」の項目による評価
- ③公開研究会等による活動状況の観察による評価

(3)

- ①学級・教科担任による家庭学習内容等の観察による評価
- ②教科担任や学習委員会による活動状況の観察による評価
- ③生徒アンケート「早寝、早起き、朝ご飯」の項目による評価